

感覚環境のまちづくりシンポジウム（平成 20 年 12 月 9 日）

「感覚環境のまちづくりの推進に向けての環境省の取組」

環境省水・大気環境局大気生活環境室長 志々目友博氏

ただいまご紹介にあずかりました環境省大気生活環境室の志々目でございます。

皆様方には、大変遅い時間までこのシンポジウムにご参加いただきまして、ありがとうございます。

最後に私の方から、環境省の感覚環境のまちづくりの現在の取組・課題と今後の方向性などについて簡単にご紹介していきたいと考えております。

本日、お話しする内容でございますが、最初に「感覚環境とは？」ということで簡単にお話をした後、今まで取り組んできた環境省の事例を 11 ほど、断片的にご紹介し、最後に今後の展開の方向性について幾つかお話をさせていただきます。

最初に感覚環境についてでございますが、先ほど花木先生からご紹介いただきましたので詳細な説明は割愛させていただきますが、これまでの環境行政は、とかく悪臭・騒音・過剰な照明とか熱環境のヒートアイランド対策、こういう負の面に目を向けて、特に規制等の手法を導入してきました。このような中で今後は、一人一人の感性を豊かにしていく側面に目を向けていきたいということで、よい香り、よい音などといった視点を新たに加えて進めていったらいいのではないかという方向性が出たということでございます。

負の面の悪臭・騒音等の苦情についても引き続き増加傾向にあり対応が重要であります。むしろいい感覚環境を大事にしていくことを通じ、マイナスの面も改善していきたいという考え方でございます。

環境省は 10 年以上前から色々な取組を行っております。こちら先ほど山下充康先生からお話しいただきましたが、「残したい日本の音風景 100 選」というものを平成 8 年に選んでいただいております。平成 8 年には、自然の生き物の音、自然の川の流れ等の音、また祭りでありますとか、様々な産業の音などが選ばれました。

また、次がかおりの分野、山下柚実先生からご紹介がありましたが、平成 13 年には「かおり風景 100 選」ということで、富良野に始まる 100 のかおりと風景がマッチした、そういうベストな箇所を選ばせていただいております。

また、平成 18 年には「感覚環境の街作り報告書」を取りまとめました。これは必ずしも大都会だけが問題ということではないのですが、1つの問題提起として、高度経済成長期には、まちとしてはいろんなビルをとにかく造るといような、量を中心とした開発等が行われてきたということで、ややもすると質の観点が不足してきたのではないかということがある訳でございます。

その結果として、無機的なまちがかなり全国的に形成されてきたのではないかと考えております。これからは、今後 50 年、100 年を見据え、各先生方からご紹介いただきましたような五感を活かした質にも重点を置いたまちづくりを、役所だけではなく、民間の方、国民の方々と一緒に考えながら進めていく、そういう時代が来ているのではないかということでございます。

そういう中で、熱、光、かおり、音のような感覚の部分の行政をやっている部署において、五感の切り口で良好な生活環境を創出・確保していくということを目指してはどうかということが提言された訳でございます。

また、都市の更新の機会ということがありまして、歴史的なまちももちろん重要でございますが、この他、都市については、今、まさにビル等が更新の時期を迎えております。例えば、東京駅の前の大手町・丸の内・有楽町等の地区では、30 年以上前にできたビルが約半数を超えていると言われておりますが、日本全国、類似のケースが多々ございます。こういう機会をとらえて、今後はこの質を加味した建てかえを行っていただくといった観点を入れてはどうかということでもあります。

それから、ここに書いてありますような、感覚環境のデザインを入れ込むとか、花木先生からご紹介のありました、問題対応型ではなくプロアクティブな、環境設計型の対応にしていくことや、住民参加を初め色々な主体の参加といったことが盛り込まれております。

この検討に当たっては、熱・光・かおり・音の 4 つの部会を設けまして、放送大学教授の鈴木基之先生を中心に取りまとめていただきました。ご興味ある方は、こちらのホームページのアドレスの方をご参照いただければ大変ありがたいと思います。

また、こちら花木先生からご紹介いただいたものでございますが、先ほどの報告書を分かりやすくかみ砕き、いい感じのまちづくりを行っていくにはどうすればいいかということで、お手元の封筒にも入れさせていただいておりますが、昨年、このようなパンフレットも作成いたしております。こちらは、前橋工科大学大学院教授の小

林先生に座長になっていただき、分かりやすくまとめることを目指して作成したものでございます。

この他、各論といたしまして、平成 18 年度から「みどり香るまちづくり企画コンテスト」という企画のコンテストを開催しております。これは、かおりの樹木や草花を使ってみどり香るまちを創出・保全していく企画を提出していただき、その企画を専門の先生方に審査していただいた上で、優秀な作品については、環境大臣賞等の賞と、かおりの企画に使われた樹木と草花を、日本アロマ環境協会から副賞として差し上げるといった試みも行っております。

これは 19 年度の事例でございますが、環境大臣賞、におい・かおり環境協会賞、日本アロマ環境協会賞として、これらの企画が選ばれております。

この中で 1 つだけご紹介させていただきますと、北海道稚内市における企画になりますが、少し内陸に入ったところに旧海軍の通信所があった場所がありまして、かなり建物が老朽化してきておりますが、この約 6.4ha の土地に 850 本のかおりのする樹木や草花を植え、香りとさえずりの杜を創出するというプランでございました。

また、少し嗜好が変わりまして、今年はちょうど源氏物語が千年紀になっており、また、京都御苑が御苑と命名されて 130 周年を迎えるということで、京都御苑において「かおり風景全国フォーラム in 京都」という行事を今年 1 月に開催しております。そういう中で、源氏物語の香りとか、こういうものをテーマにしながら、香りのイベントを開催いたしました。

それから、光の関係でございますが、適正な屋外照明を推進するために、光害対策ガイドラインというものを作っており、うまく設計しますと、人の目にも優しく、かつ必要な照明は確保でき、かつ消費エネルギーはかなり削減でき、石井先生がおっしゃったような屋外照明が確保できる訳でございます。そういうノウハウ等を技術的に取りまとめたものでございます。

そのほかに毎年、「星空の街・あおぞらの街全国大会」という行事を開催しております。これは、不必要な光を空に出さない、あるいは大気環境をきれいにするることによって星空が見えるようなまちをつくっていくという趣旨で、毎年、高円宮妃殿下にご臨席いただきながら全国大会を開催し、光と大気環境を保全する活動を実施しております。

次に、熱の分野でございますが、特に大都市におけるヒートアイランド現象が非常

に大きな問題になってきている中で、ヒートアイランド対策を大都市で集中的に進めていくため、全国で 11 の街区を環境省で認定いたしまして、その街区で集中的な対策を進めることによって、快適な熱環境のまちをつくり上げていくパイロット事業を実施しております。

1 つの例をここに書かせていただいておりますが、これは東京駅の前の丸の内ビルでございます、大手町・丸の内・有楽町地区という 120ha ほどの日本の大企業の本社が集積している地域ですが、こういったところで積極的に地域の方々が緑を導入すること等に力を注いでいच्छゃいます。その中で、屋上緑化がされたものがこの事例でございますが、こういう緑を都会の中に増やして涼しいまちをつくり、かつ心地よい緑の環境を整備していこうという趣旨でパイロット事業等を実施しております。

その他、一昨年から実施している内容でございますが、皇居のクールアイランド効果を調べてきております。皇居は 115ha ほどの大きさがあり、そこには非常に豊かな緑の環境が存在しております。この調査により、8月の平均気温が周辺市街地よりも約 2 度低いことが分かったほか、夜間の風のない晴天時にはこの皇居の冷たい空気が周りにじわじわとにじみ出して皇居外苑から約 300m 先の東京駅までその冷たい空気が達していたということも確認されております。

これは、皇居のようなまとまった緑を大事にすることによってクールアイランド効果にも役立つということを象徴的に示している訳でございます。今後、環境省においては、お濠の水を活用したヒートアイランド対策だとか、お濠の水質が近年悪化してきておりますので、その浄化対策などとも連携して、皇居周辺の環境をよくしていく取組も進めようとしておるところでございます。

それから、次はまた京都御苑の話になりまして、今年 10 月、11 月に「平安王朝の夜と御苑の森」ということで、この期間だけは御苑のライトを消し、平安時代の闇を体験していただくというイベントを開催いたしました。併せて講演会等も開催しておりますが、源氏物語の香りを焚き染めまして、そういうかおりの面でも昔を体験していただきながら、このような感覚環境を感じていただくということも行っております。

最後に、今後の展開の方向を 3 つだけ紹介させていただきます。1 つは、この感覚環境は国が何か決まった基準を示すような類の分野ではございませんので、花木先生から最初にご説明いただきましたが、現在、花木先生を座長として、山下柚実先生にもご参画いただきながら、感覚環境のまちづくりの優良取組事例、ベストプラクティ

スを集めていただいております。先ほど山下柚実先生からご紹介がありましたように、こういうものを今年度中に作り上げ、皆様のお手元に届けていきたいということになります。

また、花木先生からご紹介がありました、学術的にはなりますが、より良い感覚環境の見える化、定量化といったことも一方では実施していきたいと考えております。

また、ベストプラクティスをコンテストで表彰するなどといったことを通じ、この感覚環境を幅広く日本中に広めていければと思っております。この分野は緒に就いたばかりでございますので、ぜひ、皆様方の貴重なご意見をいただきながら充実していきたいと思っておりますので、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

大変簡単でございますが、これで講演を終わらせていただきます。ありがとうございました。